

記念物
【史跡】

とうざとおんだいせき
桃里恩田遺跡

指定年月日／1990（平成2）年2月2日
所在地／桃里 161-44・165-911



桃里恩田遺跡は、大里集落から星野集落へ向かう国道 390 号線の海側にあつて、通称ペーフ山（屏風山）と呼ばれる小高い丘の頂上付近に位置する。この一帯の地質は古生期石灰岩（宮良層）で形成されている。この岩石はコンクリート原料に適していることから採石が行われ、遺跡の一部も採石によって破壊されている。

1981（昭和 56）年に市教育委員会によって範囲確認のための発掘調査が行われた。その結果、中国産陶磁器、島で焼かれた中森式土器、徳之島産のカムイ

ヤキ、石器、古銭、食料残滓の貝殻や炭化米、炭化麦などが出土した。また、鉄器や砥石も出土している。

これらの出土遺物から、14 世紀から 15 世紀を中心とした遺跡であることが確認されたが、それよりもっと古くなる可能性も指摘されている。八重山諸島における古琉球の集落形態を知るうえで重要な遺跡である。

県指定

記念物
【天然記念物】

コノハチョウ
Kallima inachus eucerca

指定年月日／1969（昭和 44）年 8 月 26 日
所在地／地域を定めず指定



撮影：渡辺賢一

コノハチョウは国外ではヒマラヤからネパール、インド、タイ、中国南部、台湾などに広く分布しているが、国内では沖縄本島を北限として、石垣島、西表島に生息している蝶である（鹿児島県沖永良部島でも記録有）。その名のとおり、羽根を閉じると、葉脈まで枯葉そっくりの形と色彩をしていることから、擬態の好例として世界的に有名である。

開いた羽根の表面は、全体に光沢のある深い藍色をしており、その中を大胆なタッチで、1本の太い鮮やかな橙色の帯が弧を描いて走っている。あたかも大海に沈む夕日を思わせるような美しさと、他に例を見ない珍しさのために、ヨナグニサンと同じくマニアの標的となって乱獲されたこともあった。

幼虫の食草はセイタカスズムシソウで、産卵は食草や付近の植物、岩などにも行われる。成虫は樹液を好み、イジユの花などで吸蜜することもある。オスは比較的日当たりのよい谷川などにテリトリー（縄張り）を持ち、他のオスを追い払う行動が観察される。